

第2期鎌倉市観光基本計画（案）に対するパブリックコメント結果について

1. 実施結果

募集期間：平成18年9月1日から9月20日まで

募集方法：広報かまくら、鎌倉市ホームページへの掲載

観光課、市役所ロビー、各支所窓口にて配布

応募結果：8件（女性2、男性5、不明1）

（鎌倉地域1、大船1、玉縄4、不明2）

2. ご意見の一覧

いただいたご意見をそのまま浄書したものです。

① 鎌倉地域 男性

鎌倉市の観光基本計画を策定されるなら世界を視野に入れた基本計画を策定すべきです。

そのためにはまず最優先として鎌倉市としてではなく日本国としての鎌倉を位置づけ、国、県を巻き込んだ観光都市計画が必要です。ちまちまと鎌倉市だけで策定しても限度があるのは明白です。

まずその優先すべき題目は電線ケーブル類の地下埋設（共同溝の設置）です。若宮大路はようやく地下埋設となったが、その他の地域は鳥も飛べないような蜘蛛の巣状態で世界的に恥ずかしい状態です。

ここをスタートとして基本計画を策定してください。

② 大船地域 男性

「第2期鎌倉市観光基本計画」を読み、大いに賛同でき、期待する部分がある一方、最も基本的なことにつき批判を述べねばならないところがある。

大いに賛同できる部分

まず、私がよしとするところは、6頁1-3の最下段、「これまで観光に関して、行政や事業者と市民との対立があったとされていますが、今後は行政や事業者、市民をはじめとした観光に取り組む多様な主体が、対等に連携し地域全体を活性化していく姿勢を共有していく推進体制を構築していく事が大変重要になります。」の部分です。まさにそのとおりで、このことは鎌倉観光産業活性化の戦略手段として絶対に必要な事であり、この「体制の構築」を現実に行うしてもらわねばならない。

その反省と新たな方針のもと、アクションプラン5（12頁）において、「観光振興に取り組む観光事業者や団体、NPO、市民などの主体間のネットワーク化を図り・・・アクションプランの進捗状況を

定期的に把握し、進捗状況などのデータを積極的に情報発信します。」としていることは大いに期待が持てる。

考えと実行が伴っていない

ところがしかし、目をⅢ—4の目標別アクションプラン表に移すと、一つ一つの行動の取り組みの主体者が、観光事業者、観光協会、市民、行政、などばらばらであり、「ネットワークを図ったり」、「総括」できる司令塔となるような主体が設定されていないのは問題である。

18頁、目標3においても、「多様な観光主体が一体となって、組織的に観光振興に取り組もう」と表明しているのだが、一体となって取り組むには、全体をコントロールし、合理的戦略的にマネージする指令部門がなくてはならない。本来、行政ないし観光協会自らその意識を持って、その任務を担当しなければならないはずである。その意欲と意図と計画がここに見られないのは問題であり、先の反省と方針を空虚なものにしている。言い換えると、口先（考え）と実行が伴っていないと思わざるを得ない。

基本目標が月並みにして陳腐

基本計画で最も問題なのは、その基本目標1, 2である。

「鎌倉らしさにこだわる観光」とはあまりにも当たり前すぎる。どこの土地でもその地域特性を考慮した観光活動をするのは当然である。そして鎌倉にも、武家の古都という他とは格段に秀でた特性があり、その遺跡も多数抱え、しかも世界遺産になるまでの有利さを持っている。鎌倉らしさとはわざわざ言うまでもない事である。鎌倉らしさを、と主張する事は、美人の女性らしい女性が、女らしくなろう、と言うようなものである。

「伝統と快適性が調和した観光」というのも当たり前すぎ、月並みで陳腐。鎌倉の将来についてよく思考をめぐらせていない考えであり表現である。

経済活性化への意図や決意を表明すべき

いったい鎌倉観光産業が方針とせねばならないことは何か。それは観光産業を鎌倉経済活性化の基盤として位置づけねばならないということである。少子高齢化、地方分権というこれからの自治体の置かれた状況にあって、この苦境を救うものは観光産業の活性化しかないということ、鎌倉の将来はこれに担わせるのだという決意や覚悟が、この基本計画には感じられない。

観光を「もてなす」という面からのみ捉え、よりよき「もてなし」の観光地であろうとする事はそれなりに当然必要なことであるが、一方でそれによって経済を潤さねばならないという功利的な狙いもなくはない。鎌倉観光が産業にならず「安全で快適に楽しめる」観光地だけであろうとすれば、どこかで生きづまりが生ずる。昔の共産国が採算抜きで行動したように、「もてなし」を採算抜きでやっていたら、その行動はいつか行き詰まるし、社会の魅力を失うものになるものだ。

目標の代案

私は次のような基本目標案を提言する。

1. 鎌倉観光産業を鎌倉経済活性化の支柱と位置づけ、将来の市民経済を潤し、鎌倉経済が依拠しうる産業としていく。
2. 観光産業を中心にして、鎌倉文化の向上と創造をうながし、そして他地域へ文化の発信を行うと同時に、古人への敬慕心を高め、遺跡文化の保護と啓蒙に努める。
3. 基本目標案のとおり

③ 地域・性別 不明

P 8 II-1 基本理念

観光の計画にもあるにもかかわらず、「住んでよかった」を冒頭にもってくるのはいかがなものか。
「訪れてよかった、住んでみたい」などとなるのでは？
また、世界遺産との結びつきをもっと強くするべきではないか。

P 9 II-2 計画のめざすところ（将来像、目標） 目標 1 鎌倉らしさにこだわる観光の実現

「～します」「～となるでしょう」と客観的な表情が多く、何をどうするかがわからない。基本計画である以上「～して、～となる」など能動的な記述（内容も）とするべきではないか。

P 18 III-3 アクションプランの構成 目標 1・2・3

行政評価のように具体の施策がしっかりあって、その成果を検証することが必要ではないか。
主体的な取り組みがなく「人まかせ」の感じが強いと思います。この計画で一体何をするのか分かりません。

④ 玉縄地域 男性

○計画を読んでもみると、その対象が旧鎌倉地域に限られ、大船・腰越などが抜けている印象がある。
○市内に、平成 20 年にここで立会演説会を行うという県議会議員の写真入りのチラシが掲示されていて目に付く。選挙管理委員会に確認したところ、日時が指定され実施するというものであるので公職選挙法の上では問題がないということだったが、景観が阻害されており、問題なのではないか。

⑤ 地域 不明 男性

1、目標別のアクションプラン（案）の項目エ）の市民・観光客双方に快適な交通環境を実現しよう
とあるが、最近、人力車（特に若者）の客引きが市内主要観光地道路上でされており、観光地として決して外来客に良い印象を与えていない。

これらの人力車に対して営業認可制度はどうなっているのか????? 資格制度（モラル、歴史・文化等の知識等々）を市として設ける等、抜本的な歯止めと規制を考えるべきである。

古都として、歩く街としてのイメージ上良くない。利用客が年寄りとか体の不自由な人でなく、元気な若者が多く、又車夫も勉強不足で騒々しい若者が多くなっている。

此の俣では、快適な観光地としてのイメージを損なう恐れが多分にある故、早期資格制を考え

るべき。又、街角のあちらこちらで客引きをしない様に、人力車指定待合場所をきちっと設けて秩序を保つべきと思うが如何！！

2、世界遺産登録への問題もあるが、観光地としてより良いまちづくりをしてゆくには、観光課だけのアクションプランでなく、関連他部門との連携をより強化して、一つ一つのPDCAを行なう必要がある。

観光基本計画案を読むと、その辺の意識が余り感じられない。例えば、行政が主体的に行なうとなっている、市民レベルで観光ガイドや障害者・外国人等のまち歩きを支援とあるが、具体的に行政の各部門は各々何をするのか、一般市民には良く判らない。

⑥ 玉縄地域 女性

「日本・世界の中の鎌倉」を意識した鎌倉文化を気軽に体験できる場づくりを

Ⅲ－4 目標別のアクションプラン 目標1 鎌倉らしさにこだわる観光の実現

「鎌倉の歴史、伝統、精神性などの体験型プログラムの開催」について

多様な鎌倉の伝統文化を、いつでも、何人でも、低料金で、気軽に体験学習できる場の提供が、期待されます。多くの人々が鎌倉の魅力に気づいたり、その奥深さを学んだりすることは、伝統文化の継承や発展につながるでしょう。以下のような体験ができる体制づくりを、促進してはいかがでしょうか。

既存の施設やサービスをより充実させ、受け入れ時間や参加可能人数についてより柔軟に対応できるようにしたり、市内の情報を市の観光関連機関で総合的に把握・案内したりする形でも良いと思います。

- ・修行体験（坐禅・写経・精進料理）
- ・「道」を学ぶ（茶道・華道・香道・書道）
- ・武士道（礼法・弓道）
- ・芸能（日本舞踊・能・邦楽）
- ・作品づくり（鎌倉彫）
- ・遺跡見学と考古学講座
- ・市所有の建築物見学

⑦ 大船地域 女性

1. 第1期の基本計画について評価委員会等で総括する場が必要だと思いますが、第2期計画の施行については1年毎に評価委員会で見とどける作業が必要かと思われます。
2. P3の計画の位置づけについて
 - 都市マスタープラン、環境基本計画を一つの枠の中に入れていますが、独立させる方が良いと思います。そして今年度策定にかかっている景観計画の枠を追加して欲しい。
 - そして下の枠にある景観計画のかわりに住宅マスタープランを明記して欲しい。
 - 関連条例を明記して欲しい。
3. P5 「現況」と「第1期の評価」が少し書かれていると思います。小見出しをつけて欲しい。
4. P6 観光審議会の役割をそして活躍を載せて欲しい。
 - 業種に海水浴場、美術館、ギャラリー、花火、芸能等を書いて欲しい。
 - 宣伝、出版等、四季のたより、観光案内図等、行政と市民、事業者との協働を記して欲しい。
5. P7 上段を小さくし、下段に 又、行政の各課（関連課）を書いて観光行政は市の重点事業であることを記して欲しいです。
6. P8等、以下「鎌倉らしさ」の文字が多いですが、この一言では抽象的です。下から8行目は、継承することが最も大切であると考えます。で良いと思います。
7. P9,10は目標なので文章の語尾を目標文章体に統一して欲しい。そして目標1、2、3を1頁にまとめて欲しい。
8. P11,12の基本方針も1頁にまとめて欲しい。方針1は地域と行政が一丸となって取り組み、…。
方針3 鎌倉らしいもてなしはあいまいなので、伝統と創意工夫のもてなしにして欲しい。目標に対する方針だと思しますので、方針3…目標1、方針1、4…目標2、方針2、5…目標3にあたるのではないかと思います。
9. P13
 - は
 - 「来訪者の満足から地域全体の満足」→「来訪者の満足と」に変えて欲しい。
 - 主体にNPO、市民団体 も入れて欲しい
10. アクションプランに、行政の取り組みがのってますが、もう少しくわしく庁内検討会等での取り組みを書いて欲しいです。
 - 頁を広くして
 - フィルムコミッションの担当課はどこでしょうか。
 - 鎌倉検定の担当課はどこでしょうか。
 - 花火大会の当日ゴミ分別ボランティアや翌日清掃ボランティアの活躍は大きい活動なので明記して欲しい。
 - 野村総研跡地の観光利用に専門担当を作って欲しい。活動を公表して欲しい。
 - ホームページに市民のホームページで良いものはリンク参加できるようにする。観光の輪を作る。
 - 大船地区、玉縄地区の歴史観光宣伝をし、鎌倉を広くとらえる。大船フラワーセンター等。
11. 計画書の最後に策定過程を明記して欲しい。

⑧ 玉縄地域 男性

目下、鎌倉の観光客、海水浴客、宿泊客共減少中とのこと。残念ですが、観光地、リゾート地としての魅力、受入態勢が現状のままでは、これから、少子高齢化で国内人口が減少するにつれて目減りして行くのは防げません。問題は智恵と資金と環境保護条例との調和ですが、この度、第二次鎌倉観光基本計画で意見募集と伺い、以下いささかのコメントと解決策を提案したいと存じます。

私、鎌倉市民で現在年金生活中ですが、平成五年迄は観光企業の大手、藤田観光（株）に36年在職し、開発、経営企画業務にも携わりましたので、いづれかでもご参考になれば幸いです。

（１）観光地・リゾート地としての鎌倉の問題点

- ①歴史的古都としては自然環境が旧態依然のまま神社・仏閣が質素で参詣・観光客に飽きられ、海水浴場としては海の景観がいま一つで、海水汚染が心配されて、海水浴客に敬遠され、リピーター客が減少している。
- ②道幅不十分、駐車場不足で車利用客の不便が一向に解消されない。
- ③歴史上の人物、征夷大將軍で武家政治創始者の源頼朝の祀り方、墓が粗末過ぎて参詣客の期待を裏切りイメージダウンを誘う。
- ④鎌倉での遊覧時間が短かく済むため、遠来客、旅行代理店の間で、宿泊地は便利で賑やかな東京、横浜か温泉に入れる箱根、伊豆で、鎌倉は休憩だけで安上がりの観光ルートが定着している。
- ⑤県都や地域中心都市でないうえ、居住人口も現状多くないので、ビジネスや私用を兼ねた観光、宿泊客が多くは期待できない。

（２）観光地、リゾートとしての鎌倉の再生・活性化案

- ①鎌倉アルプスを含め三浦半島の景勝地をまとめて新たに国定公園に制定し、自然環境型リゾートとしてイメージアップを図る。目下計画中の武士の古都として鎌倉単独での世界遺産登録は、肝心の武家屋敷が現存せず、復元も叶わず、現状の寺社のみではまとまりが悪く難行しよう。
- ②まだ駐車場不備な神社・仏閣周辺には、各々相応スペースの駐車場を確保して乗用車利用の年寄り、子供連れ、家族客の便利を図る。
- ③源頼朝を義経と共に相応しい規模の「源神社？」を造営して祀るか、鶴岡八幡宮に合祀して目に見える形で名誉回復を図る。
- ④北鎌倉～源氏山～広町・台峯緑地～鎌倉山間に、相模湾と富士山を眺望できるスカイライン自動車道を建設し、新観光ルートとして魅力を増強し、唯一の海岸線ルートの交通混雑緩和を図る。
- ⑤市有緑地の一角に相応規模の武家屋敷数棟を建設し、テーマパーク「鎌倉幕府」として観光の新たな目玉とする。もし園内に源頼朝を祀る施設も含まれると集客上一層イメージアップ出来よう。